青空文庫 (6)「源氏物語」桐壺 (30) 紫式部 與謝野晶子訳

月　　日　名前

見ながら練習

なぞって練習

堪えがたく悲しんでおいでになった。はなやかな顔だちの美人が非常に痩せてしまって、心の中には帝とお別れして行く無限の悲しみがあったが口へは何も出して言うこともできないのがこの人の性質である。

copyright (c) まる字の無料ペン字練習と漢字検定テキスト集 all right reserved.